

東広島市教育委員会定例会（令和8年9月）

1 日時 令和8年9月25日（金）午前10時から

2 場所 東広島市役所北館2階 201会議室

3 議題

(1) 議案事項

議案第15号 東広島市天然記念物の指定解除について ــ 1

(2) 報告事項

報告第40号 令和8年第3回東広島市議会定例会について ــــــــــــــــ (別冊資料)

報告第41号 令和8年度全国学力・学習状況調査の結果の更新について ــــــــ 1

報告第42号 東広島市いじめ防止基本方針の改定について ــــــــــــــــ 2

報告第43号 東広島市いじめ問題調査報告について ــــــــــــــــ (別冊資料)

報告第44号 令和7年度指定管理者モニタリング・評価結果（教育委員会関係分）
について ــــــــــــــــ (別冊資料)

報告第45号 第1回「東広島 Well-being フェスタ」の開催について ــــــــ 14

(3) その他

ア 令和8年度教育施設等状況視察について ــــــــــــــــ 1

イ 次回教育委員会定例会等の日程について

東広島市教育委員会定例会

(1) 議案事項

議案第15号 東広島市天然記念物の指定解除について（文化課）

令和8年9月

議案第 15 号

東広島市天然記念物の指定解除について

東広島市文化財保護条例（平成 19 年東広島市条例第 9 号）第 5 条第 1 項の規定により、東広島市天然記念物を指定解除することについて、次のとおり提案する。

令和 8 年 9 月 25 日提出

東広島市教育委員会
教育長 市 場 一 也

1 提案理由

東広島市文化財保護審議会から、指定解除が妥当との答申を受けた物件について、東広島市天然記念物の指定を解除するため、この議案を提出するものである。

2 指定解除する文化財

種 類	東広島市天然記念物
名 称	蓮教寺のアスナロ
員 数	1 株
原 因	滅失による。 令和 8 年 8 月 10 日、樹木診断により枯死と判断され、再生の見込が無いため
所 在 の 場 所	東広島市豊栄町清武 2577 番 1
所有者等の住所	東広島市豊栄町清武 2577 番地
所 有 者 等	宗教法人蓮教寺

3 指定を解除する期日

令和 8 年 9 月 日

4 根拠規定

東広島市文化財保護条例

第 5 条 教育委員会は、前条第 1 項の規定により市指定等又は同条第 2 項の規定により市認定された東広島市文化財がその価値を失った場合その他特殊の事由があるときは、その市指定等又は市認定を解除することができる。

2～5 ー略ー

東広島市教育委員会教育長事務委任規則（平成２０年東広島市教育委員会規則第２号）

第１条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（一略）第２５条第１項の規定に基づき、東広島市教育委員会（一略）の権限に属する事務のうち、法第２５条第２項各号に規定するもののほか、次の各号に掲げるものを除き、教育長に委任する。

(1)～(9) 一略一

(10) 文化財の指定又は選定及びその解除を行うこと。

(11)～(12) 一略一

(別紙) 文化財の概要及び状況

項目	内容
名称	蓮教寺のアスナロ
種別	天然記念物（市指定）
所有者	宗教法人蓮教寺
所在地	広島県東広島市豊栄町清武 2577 番 1
指定年月日	昭和 50 年 3 月 1 日
計測値	樹高 17.5m 胸囲周囲 3.36m 根元周囲 15m ※平成 23 年度の旧町指定文化財の見直し時の調書による
推定年代	300 年（指定申請書による）
概要	昭和 57（1982）年の広島県巨樹調査報告書により、県内で最も大きいアスナロの木（樹高 20m、胸高幹囲 3.3m）として記録される。 数度の落雷 を受け、昭和 57 年に上部等を切除した。その際に切除した親枝で 170 年の年輪が確認された。
経緯	- 平成 26 年度：葉が少なくなっていることから樹木診断を実施 落雷の影響で生きている部分が少なく、施肥を行っても改善する見込みはないため、経過観察が妥当と判断 以後、環境整備の完了報告時等の経過報告により状況を確認 - 令和 8 年 7 月：所有者より根元の空洞が広がり、葉も赤茶色に変色していると 市教育委員会へ報告 - 令和 8 年 8 月：樹木診断を実施 新芽が萌芽しておらず、空洞や葉の状況から枯死していると判断 主な原因は落雷による衰弱である。倒木以上に枝の落下が懸念され、人的・物的被害を避けるためには、伐採が考えられると助言 これを受け、所有者が滅失届を提出 令和 8 年度第 1 回東広島市文化財保護審議会にて指定解除が妥当と答申



		
北西から（昭和50～57年の間に撮影）	南東から（平成22年）	根元部分 北西から（平成22年）

○現在の状況（令和8年）

		
北西から	南東から	根元部分 北西から
		
頂部の変色した葉 北東から	北東から	根元部分 南東から

令和8年8月19日

東広島市教育委員会 様

東広島市文化財保護審議会
会長 今田 幸博



東広島市文化財の指定解除について（答申）

令和8年8月19日付け東広教文第215号で諮問のこのことについては、指定を解除することが妥当と認めます。

◎諮問物件

令和8年度 東広島市文化財指定解除諮問物件

種別	名称	種類	員数	原因	所在地	所有者
市天記	蓮教寺のアスナロ	天然記念物	1株	滅失による。 令和8年8月10日、樹木診断により枯死と判断され、再生の見込が無いため	東広島市豊栄町 清武2577番1	宗教法人 蓮教寺

別記様式第10号（第8条関係）

東広島市天然記念物滅失届

令和8年8月10日

東広島市教育委員会 様

所有者 住 所 東広島市豊栄町清武2577番地
氏 名 宗教法人蓮教寺
代表役員 福波 順誓

次のとおり、東広島市天然記念物が滅失しましたので、届け出ます。

- | | |
|----------------|-------------------------------|
| 1 種別、名称 | 天然記念物 蓮教寺のアスナロ |
| 2 員 数 | 1 株 |
| 3 指定年月日 | 昭和50年3月1日 |
| 4 滅失が生じた場所 | 東広島市豊栄町清武2577番1 |
| 5 滅失当時の管理状況 | 経過観察等、通常の維持管理 |
| 6 滅失の原因、箇所及び程度 | 過去の落雷等が原因の衰弱による枯死 |
| 7 滅失の事実を知った日時 | 令和8年8月10日10時45分頃
(樹木診断による) |
| 8 滅失後執られた措置 | 滅失届の提出 |
| 9 その他参考となる事項 | |

添付資料

- (1) 毀損の場合にあっては、写真（キャビネ版）及び見取図その他損傷状態を示す資料

※ 東広島市重要文化財（有形民俗文化財）については、指定書記載の場所が現在の所在と異なる場合は、現在の所在地を「所在地」欄に併記すること。

東広島市教育委員会定例会

(2) 報告事項

報告第40号 令和8年第3回東広島市議会定例会について（学校教育部・生涯学習部）

報告第41号 令和8年度全国学力・学習状況調査の結果の更新について（指導課）

報告第42号 東広島市いじめ防止基本方針の改定について（指導課）

報告第43号 東広島市いじめ問題調査報告について（指導課）

報告第44号 令和7年度指定管理者モニタリング・評価結果（教育委員会関係分）について
（生涯学習課・スポーツ振興課・文化課）

報告第45号 第1回「東広島 Well-being フェスタ」の開催について（生涯学習課）

令和8年9月

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果の更新について

1 調査の概要

(1) 調査期日 令和8年4月23日(木)

(2) 調査対象 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。
 ①小学校調査 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
 ②中学校調査 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査内容

【小学校】

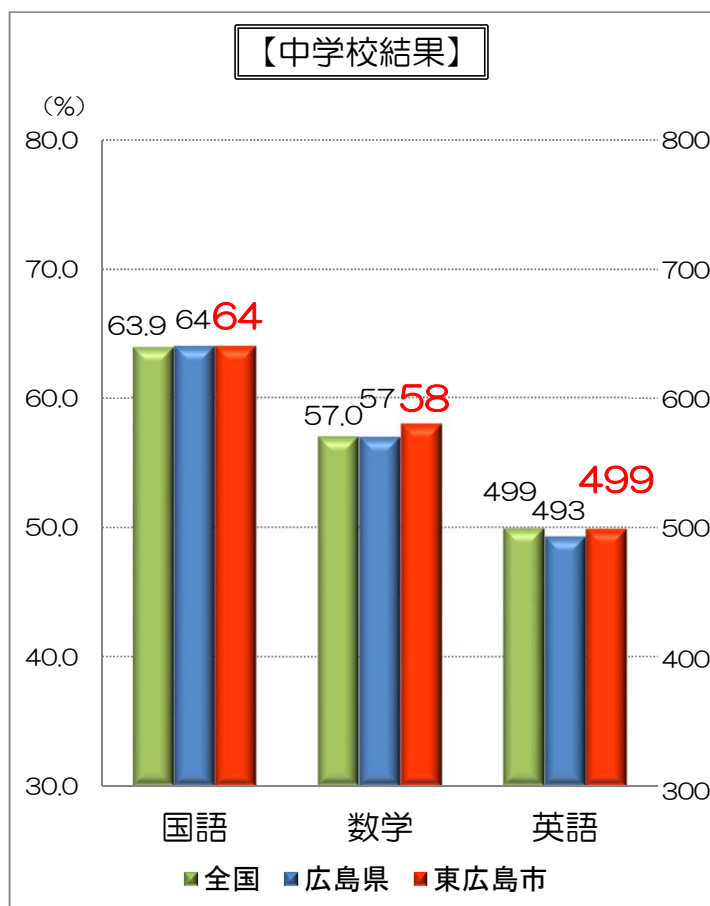
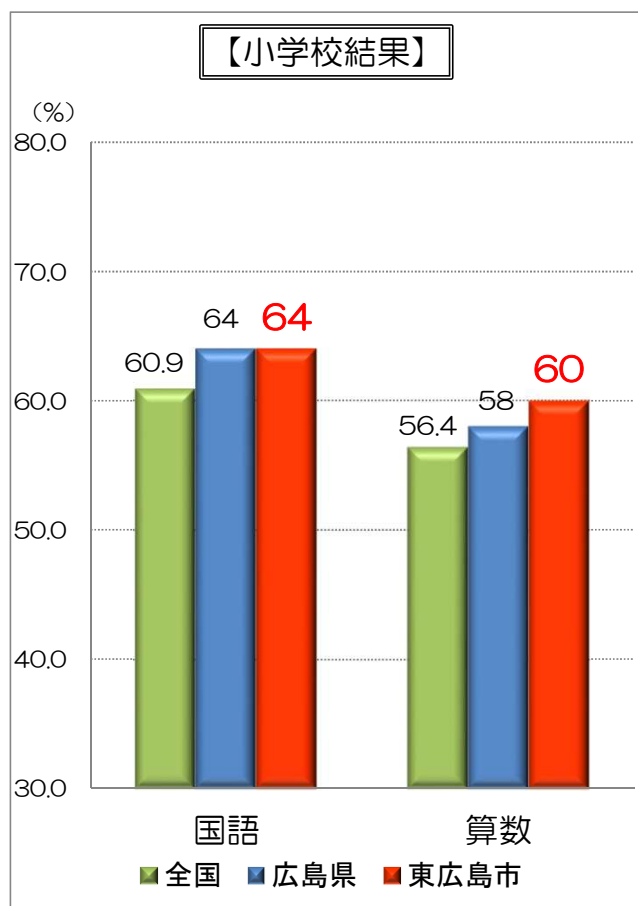
- ①国語及び算数における前学年までの学習内容(原則)の定着状況調査
- ②学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する児童質問調査
- ③指導方法や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する学校質問調査

【中学校】

- ①国語、数学及び英語における前学年までの学習内容(原則)の定着状況調査
- ②学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する生徒質問調査
- ③指導方法や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する学校質問調査

2 東広島市の調査結果の概要

(小学校結果及び中学校国語、数学については平均正答率 中学校英語については平均IRTスコア)



※平均IRTスコアとは、項目反応理論に基づき、問題の難易度を踏まえて算出した値です。

東広島市いじめ防止基本方針

平成26年8月18日 策定

令和8年9月1日 改定

東広島市・東広島市教育委員会

1 東広島市いじめ防止基本方針策定の目的

東広島市いじめ防止基本方針（以下、「基本方針」という。）は、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号）（以下、「法」という。）第12条の規定に基づき、東広島市におけるいじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するために策定するものである。「基本方針」は、国及び広島県の基本方針と「学校いじめ防止基本方針」の結節点となるものであって、各学校のいじめの未然防止等の取組の基盤となるものである。

（地方いじめ防止基本方針）

第12条 地方公共団体は、いじめ防止基本方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体におけるいじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針を定めるよう努めるものとする。

2 いじめの定義等

(1) いじめの定義

（定義）

第2条 この法律において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係^{※1}にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響^{※2}を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であつて、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

※1 「一定の人的関係」とは、学校の内外を問わず、同じ学校、学級・ホームルームや部活動の児童生徒、塾やスポーツクラブ等、当該児童生徒が関わっている仲間や集団（グループ）など、当該児童生徒と何らかの人的関係を指す。

※2 「物理的な影響」とは、身体的な影響のほか、金品をたかられたり、隠されたり、嫌なことを無理矢理させられたりすることなどを意味する。

(2) 対応の留意点

ア 個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、対象児童生徒の立場に立つこと。

イ いじめには、多様な態様があることに鑑み、「法」の対象となるいじめに該当するか否かを判断するに当たり、「心身の苦痛を感じているもの」との要件が限定して解釈されることのないよう努めること。

ウ いじめの認知は、特定の教職員のみによることなく、「法」第22条の「いじめ防止委員会」を活用して行うこと。

エ けんかやふざけ合いであっても、見えない所で被害が発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、児童生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断すること。

オ 対象児童生徒の立場に立って、いじめに当たると判断した場合にも、その全てが厳しい指導を要する場合であるとは限らないこと。

カ 「いじめ」の中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談することが必要なものや、児童生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれる。これらについては、早期に警察に相談・通報の上、警察と連携して対

応する。

【具体的ないじめの態様】

- ・冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- ・仲間はずれ、集団による無視をされる
- ・軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする
- ・ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする
- ・金品をたかられる
- ・金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする
- ・嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする
- ・パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる

(出典 「いじめの防止等のための基本的な方針」 文部科学大臣決定 平成29年3月14日)

3 東広島市におけるいじめの防止等に関する基本的な考え方

いじめは「どの子供にも、どの学校でも起こりうるものである」との認識に立ち、就学前より学齢期・青年期に至るまで、一貫して自尊感情や社会的な規範意識等を高めるため、次に示す視点を中心として、取組を推進する。

(1) いじめの未然防止

児童生徒の成長と発達を支える確かな生徒指導を推進し、自他の個性と他者の主体性を尊重しながら、相手の立場に立って考え、自らの行動を決断し、実行する力を育むことや、相互扶助的で、心のふれ合いを基盤とした人間関係づくりに取り組む。

また、児童生徒一人一人にとって「居場所」となる「学校、学級・ホームルームづくり」を推進するとともに、不安や悩みをいつでも相談できる風土を醸成し、自己実現を支える。

(2) 児童生徒の主体的な活動の推進

授業はもとより、学級・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動等の特別活動において、児童生徒がいじめをはじめとする学校生活の課題について考え、議論する活動や、自他の生命の尊厳、尊さを深く考え、かけがえのない存在であることを自覚できる活動等の実施、また、絆を紡ぎ、互いの個性を認め、相手への尊敬と幸せを願う人間関係づくりに取り組むことなど、児童生徒の主体的な活動を指導・支援する。

(3) いじめの早期発見

いじめの早期発見には、児童生徒の何気ない一言や表情、態度に潜む「SOS」のサインといった、「いつもとの違い・変化」に気付くことなど、日々、児童生徒と向き合い、見守っている教職員にしかできない働きかけが重要である。そのため、柔軟な想像力と敏感な感受性をもって日常的な教育活動を行い、児童生徒理解を踏まえた向き合いを通して、信頼関係を構築する。

(4) いじめ見逃しゼロ

児童生徒のいつもと違う様子や人間関係の変化など、ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階からの的確に関わりを持ち、いじめを隠したり軽視したりすることなく積極的

にいじめを認知する。

また、定期的なアンケート調査や教育相談の実施（個別面談の実施）、電話相談窓口等の周知等により、児童生徒が不安や悩みを抱え込むことなく、相談できる環境を整備し、いじめを見逃さないための体制を構築する。

(5) いじめへの組織的な対応

いじめやいじめの疑いがあることが確認された場合、学校は直ちに、対象児童生徒やいじめを知らせてきた児童生徒の安全を確保し、関係児童生徒に対して事情を確認した上で適切に指導することや、東広島市教育委員会（以下、「市教育委員会」という。）に報告するなど、「いじめ防止委員会」を中心に全教職員が対象児童生徒を守り切るという立場に立ち、組織的に対応する。

(6) 地域や家庭等との連携

社会全体で子供を見守り、健やかな成長を促すためには、学校、家庭及び地域の連携が必要である。例えば、PTAや学校運営協議会（コミュニティ・スクール）等を活用したりするなど、いじめ事案について協議する機会を設けたり、いじめ事案について学校、家庭及び地域が連携したりする取組を推進する。

また、子供たちは地域社会の中で生活していることから、地域住民が子供たち一人一人をしっかりと見守り、子供たちの様子が気になることがあれば、すぐに連絡できるような学校と家庭及び地域が組織的に連携・協働するための体制を構築する。

(7) 関係機関との連携

いじめ事案への対応においては、対象児童生徒の安全確保や心のケアを迅速に行うために関係機関（警察、児童相談所、医療機関、法務局等）と連携することが大切である。

また、いじめを行った児童生徒に対して必要な教育上の指導を行っているにも関わらず、その指導により十分な効果を上げることが困難な場合などには、市教育委員会及び学校と関係機関が適切な連携を行う必要があるため、平素から、関係機関等の担当者の連絡先の把握や、連絡会議の開催等、情報共有の充実を図る。

4 東広島市におけるいじめの防止等に関する取組

東広島市は、「基本方針」に基づいて、いじめの防止等のための対策を推進する。

(1) いじめ防止等に係る組織等

相談機能の充実や関係機関等との連携によるいじめ防止に向けた体制、「法」の定める「重大事態」の調査を行うための組織は、次のとおりとする。

ア 学校生活相談及び関係機関連携の充実

市内の学校生活相談機関との連携を密にするとともに、相談機能の充実に向けた連絡協議会等を実施する。また、他の関係機関との連携を密に行い、相談機関の指導内容・方法の充実を図り、いじめや不登校等の問題の解決に向けた取組を行う。

イ 附属機関の設置

東広島市いじめ問題調査委員会設置条例（平成26年条例第43号）に基づき、東広島市立小中学

校における重大事態のうち、市教育委員会が調査を必要と判断したものについて、公平性・中立性を確保した調査を行うため、第三者の専門家（弁護士、医師、学識経験者、心理又は福祉の専門家、その他教育委員会が適当であると認める者）で構成する、東広島市いじめ問題調査委員会（以下、「市調査委員会」という。）を設置する。

(2) いじめの防止等に関する取組

- ア いじめ防止に向けた取組の推進が、専門的知識に基づき、適切に行われるよう教職員研修等の充実を図る。
- イ いじめの未然防止等のための対策が、関係者の連携のもとに適切に行われ、市教育委員会、関係機関、学校、家庭及び地域社会の連携強化を図ることができるよう、必要な体制を整備する。
- ウ いじめに関する不安や悩み、相談等について、児童生徒や保護者等が抱え込むことがないよう「ひがしひろしま24時間365日チャット相談」「心と命の相談ダイヤル」「24時間子供SOSダイヤル」「いじめダイヤル24」等、相談できる体制を整備し、周知する。
- エ 保護者が、法に規定された責務等を踏まえて、子供の規範意識を養うための指導等を適切に行うことができるよう、保護者を対象とした啓発活動など、家庭への支援を行う。
- オ 幼児期の教育においても、身近な人と親しみ、支え合って生活するために、発達段階に応じて、幼児が他の幼児と関わりを深め、共感や思いやりなど相手を尊重する気持ちを持って行動できる心を育む。
- カ 「インターネットやSNS等による投稿・拡散を通じて行われるいじめ」の未然防止及び早期対応に向け、警察と迅速に連携する体制を強化するとともに、保護者や関係機関と連携した取組を展開する。
- キ いじめの未然防止や早期発見・早期対応及び「いじめ見逃しゼロ」のための方策等に関する研究及びその成果の普及を行う。
- ク いじめの実態把握の取組状況等、学校におけるいじめの防止等の取組の点検・充実を図る。
- ケ いじめの未然防止や早期発見・早期対応及び「いじめ見逃しゼロ」等に関する取組が、総合的かつ効果的に推進されるよう、学校に対し必要な指導・支援を行う。

5 学校におけるいじめの防止等に関する取組

学校は、校長のリーダーシップの下、生徒指導体制を確立するとともに、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ防止委員会」を中心として、いじめの未然防止及び「いじめ見逃しゼロ」等のため、市教育委員会等とも適切に連携し、次のような取組を体系的・計画的に進めること。

(1) 児童生徒の成長と発達を支える確かな生徒指導の推進

児童生徒の自己指導能力の獲得を支える生徒指導では、多様な教育活動を通して、児童生徒が主体的に課題に挑戦することや多様な他者と協働して創意工夫することの重要性を実感できることが大切である。

そのためには、自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動し、相互扶助的で、心のふれ合いを基盤とした人間関係づくりに取り組み、ありのままの自分を肯定的に捉え、「自分も一人の人間として大切にされている」ことを、児童生徒が実感できる心を育むこと。また、児童生徒が自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら自らの行動を決断し、実行する力を育むことや、児童生徒一人

一人にとって「居場所」となる「学校、学級・ホームルームづくり」を推進し、不安や悩みをいつでも相談できる風土を醸成すること。

そこで、次の「四つの視点」を中心として、取組の充実を図ること。

ア 共感的人間関係の育成

○多様性に配慮した「学校、学級・ホームルームづくり」

教室に、多様で異なる考えや意見を出し合える自由な雰囲気確保し、児童生徒がお互いの違いを理解し、「他者の違いを理解し尊重することが必要である」「多種多様な人がいることで発想の幅が広がり、難しい課題の解決も可能になる」と思えるような機会をつくること。自分と他者の個性をそれぞれに尊重し、相手の立場に立って考え、行動できるようになることにより、共感的で、相互扶助的な人間関係を構築すること。

イ 自己存在感の感受

○対等で自由な人間関係を構築する居場所としての「学校、学級・ホームルームづくり」

学校生活において、授業以外にも、部活動や文化祭・体育祭等の行事の運営など様々な観点から、児童生徒が興味を抱くこと、好きになれること、夢中になれることを探す機会をできるだけ多く提供し、その活動の中で、児童生徒が対等で自由な人間関係を構築できるようにすること。また、児童生徒が、自分が行おうとしていることが認められ、周囲の人から応援してもらっていると感じることによって、学校も自分の居場所であると思えるようにすること。

ウ 自己決定の場の提供

○自らの意見を述べ、自ら選択する場面の設定

児童生徒が自己指導能力を獲得するには、学校行事における取組、また、授業場面で自らの意見を述べる、観察・実験・調べ学習等を通じて自己の仮説を検証してレポートする等、自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する、活動する等の体験が何より重要である。児童生徒の自己決定の場を広げていくために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めること。

エ 安全・安心な風土の醸成

○「困った、助けてほしい」と言える環境づくり

困ったときや悩みがあるときに、一人で耐えるのではなく、弱音を吐いたり、人に頼ったり、相談したりすることができる雰囲気があるかどうかは、児童生徒の学校での安全・安心を確保する上で非常に重要である。そうした雰囲気を醸成するためには、「困った、助けてほしい」という声を教職員がしっかり受け止める体制を学校の中に築くことが必要である。日頃の何気ない会話をはじめ、ちょっとした相談にも丁寧に対応することを通じて、児童生徒と教職員との信頼関係を構築し、児童生徒に何か困ったことや悩みが生じた時の「相談してみようかな」というＳＯＳを出しやすい教育的環境を醸成すること。

(2) 「学校いじめ防止基本方針」の策定（見直し）

ア 策定（見直し）の意義

- (ア) 「学校いじめ防止基本方針」に基づく対応が徹底されることにより、特定の教職員が情報を抱え込まず、かつ、学校のいじめ事案への対応が個々の教職員による対応ではなく組織として一貫した対応となること。
- (イ) いじめ事案の発生時における学校の対応をあらかじめ示すことは、児童生徒及びその保護者等に対し、学校生活を送る上での安心感を与えるとともに、いじめの加害行為の抑止につながること。
- (ウ) いじめを行った児童生徒への成長支援の観点を「学校いじめ防止基本方針」に位置付けることにより、いじめを行った児童生徒への指導・支援につなげること。

イ 策定（見直し）の留意点

- (ア) 自校の児童生徒の実態や地域の実情を踏まえること。
 - (イ) いじめの未然防止や早期発見・早期対応及び「いじめ見逃しゼロ」など、いじめの防止等全体に係る内容であること。
 - (ウ) 「いじめ防止委員会」が組織的かつ実効的に機能するために、具体的な役割・取組等を明確に示すこと。
 - (エ) いじめの防止等に係る年間活動計画を明確に示し、実効性のあるものとする。
 - (オ) アンケート調査、個人面談等※³の実施や、それらの結果の検証及び組織的な対応について定めておくこと。
- ※³ アンケート調査や個人面談において、児童生徒が自らＳＯＳを発信することや、いじめの情報を教職員に報告することは、当該児童生徒にとっては多大な勇気を要するものであることを理解し、児童生徒からの相談に対しては、迅速に対応することを徹底すること。
- (カ) 保護者や地域住民及び関係機関などの意見を取り入れるなど、地域を巻き込んだ方針とすること。
 - (キ) 学校のホームページや通信などで公開することや、入学前の説明会、入学時、各年度の開始時などに児童生徒、保護者及び関係機関等に説明すること。
 - (ク) 策定した「学校いじめ防止基本方針」が実情に即して適切に機能しているかを、「いじめ防止委員会」で検証し、「いじめ見逃しゼロ」に向けて、見直しを図ること。

(学校いじめ防止基本方針)

第13条 学校は、いじめ防止基本方針又は地方いじめ防止基本方針を参酌し、その学校の実情に応じ、当該学校におけるいじめの防止等のための対策に関する基本的な方針を定めるものとする。

(3) いじめ防止委員会の設置等

ア 「いじめ防止委員会」設置の目的等

- (ア) 特定の教職員で情報を抱え込むことなく、学校が組織的に対応することにより、複数の目による状況の見立てが可能となること。
- (イ) 必要に応じて、心理や福祉の専門家であるスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、弁護士、医師、警察官経験者など外部専門家等が参加しながら対応し、より実効的ないじめ事案の解決を図ること。
- (ウ) いじめの未然防止や早期発見・早期対応及び「いじめ見逃しゼロ」を組織的に行うために校務運営組織に位置付けるなど、常設の組織とすること。
- (エ) 「いじめ防止委員会」の設置目的等を、児童生徒及び保護者等に周知すること。

イ 「いじめ防止委員会」の役割

(ア) 未然防止

- a いじめの未然防止及び「いじめ見逃しゼロ」や、いじめを生じさせない環境づくりのため、「いじめの未然防止教育」の充実を図ることや、児童生徒が日常的に「相談しやすい環境づくり」を行うこと。
 - b 「いじめの未然防止教育」の例
 - (a) 全ての児童生徒が「いじめをしない」態度や力を身に付けるような働きかけを、生徒指導はもとより、各教科での学習、道徳科や特別活動、体験学習、情報モラル教育などを通じて継続的に行う。
 - (b) ソーシャルスキル・トレーニングや構成的グループエンカウンター等を通じて円滑に他者とコミュニケーションを図る取組を行う。
 - c 「相談しやすい環境づくり」の例
 - (a) アンケートの名称の工夫（「いじめアンケート」→「生活に関するアンケート」）
 - (b) アンケートの実施方法の工夫（記名式、無記名式、選択式（児童生徒が選ぶ））
 - (c) 1人1台端末を活用した「生活相談アンケート」の実施
 - (d) アンケート実施後に、教職員やスクールカウンセラーによる個別面談の実施
- ※ アンケートや面談等を通じて得た情報を、組織で共有するための場を設定する。

(イ) 早期発見・早期対応

- a いじめの早期発見や「いじめ見逃しゼロ」のため、いじめの相談・通報を受け付ける窓口としての機能を担うこと。
- b いじめの早期発見や早期対応及び「いじめ見逃しゼロ」のため、いじめの疑いに関する情報や生徒指導上の諸課題に係る情報の収集と記録の共有を行うこと。
- c いじめに係る情報（いじめが疑われる情報や児童生徒間の人間関係に関する悩み等）があった際には、緊急会議を開催するなど、いじめとして積極的に認知をするとともに、対象児童生徒及び保護者の意向を確認しつつ、情報の迅速な共有及び児童生徒に対するアンケート調査、聴き取り調査等により事実関係の把握を行うこと。
- d 対象児童生徒に対する支援及び関係児童生徒に対する指導の体制・対応方針の決定と、保護者との連携といった対応を組織的に実施すること。

(ウ) 「学校いじめ防止基本方針」に基づく各種取組

- a 「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成、実行、検証及び修正等を行うこと。
- b 「学校いじめ防止基本方針」における年間計画に基づき、いじめの未然防止や「いじめ見逃しゼロ」等に係る校内研修を企画し、計画的に実施すること。
- c 「学校いじめ防止基本方針」が学校の実情に即して適切に機能しているかについての点検を行い、「いじめ見逃しゼロ」に向けて、見直しを図ること。

ウ 「いじめ防止委員会」の機能化

(ア) 児童生徒との信頼関係の構築

教育活動全体で児童生徒の成長と発達を支える確かな生徒指導を推進すること。

(イ) 発見する・気付く

- a 日常的な観察や見守り等から「いつもの違い・変化」や「相談・訴え」などを把握した際に

は、特定の教職員が情報を抱え込むことなく窓口となる教職員（生徒指導主事・学年主任等）に伝えること。

b 「日常的な観察や見守り」の例

授業中・給食（昼食）時間の様子、登下校の様子、休憩時間や放課後の様子、人間関係の変化、アンケート、生活記録ノート（連絡帳）の記載など

c 児童生徒からいじめや人間関係のトラブル等について相談・訴えがあった際には、後回しにせず、心情や思いに深く寄り添いながら、傾聴の姿勢を大切にすること。

(ウ) つなぐ

a 早期対応につなげるために、窓口となる教職員（生徒指導主事・学年主任等）は、報告・相談を受けた情報を管理職に報告し、「いじめ防止委員会」につなぐこと。

b 管理職は、緊急的な対応が必要か否かを判断するとともに、「いじめ防止委員会」を開催すること。

(エ) 向き合う

a いじめが疑われる情報や、児童生徒間の人間関係に関する悩み等を把握した際には、「いじめ防止委員会」において、迅速に情報共有を行い、事実関係を把握するとともに対応方針を明確化すること。

b 「いじめ防止委員会」が情報の収集と記録の共有を行う役割を担うため、教職員は、ささいな兆候や懸念、児童生徒からの訴えを、抱え込まずに、又は対応不要であると個人で判断せずに、直ちに全て「いじめ防止委員会」に報告・相談すること。

c 「いじめ防止委員会」に集められた情報は、個別の児童生徒ごとに記録するなど、複数の教職員が個別に認知した情報の集約と共有化を図ること。

d 「いじめ防止委員会」に、心理や福祉の専門家であるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを参画させるなど、実効的な機能を果たせるようにすること。

e 認知したいじめ事案については、その解消に向けて、全教職員が一丸となり、それぞれの役割を全うすること。

(オ) 初動対応の機能化

特定の教職員の抱え込みを防ぐために、教職員同士が共に支え合い、学び合う同僚性を基盤とした心理的安全性の高い安全・安心な環境を構築すること。

(学校におけるいじめの防止等の対策のための組織)

第22条 学校は、当該学校におけるいじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、当該学校の複数の教職員、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者その他の関係者により構成されるいじめの防止等の対策のための組織を置くものとする。

(4) いじめ事案の組織的な対応

ア 「学校いじめ防止基本方針」を踏まえた対応

「いじめ防止委員会」において認知したいじめ事案については、事実関係を確認の上、組織的に対応方針を決定し、対象児童生徒を徹底して守り通すこと。いじめを行った児童生徒に対しては、当該児童生徒の人格の成長を旨として教育的配慮の下、毅然とした態度で指導すること。これらの対応について、教職員全員の共通理解、保護者の協力、市教育委員会及び関係機関等との連携のもとで取り組むこと。

イ 警察への相談・通報

「いじめ」の中には、SNSを介したインターネット上のいじめ事案、暴力行為やいじめの動画、誹謗中傷等がSNS等に投稿・拡散される事案など、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談することが必要なものや、児童生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれる。これらについては、早期に警察に相談・通報の上、警察と連携して対応すること。

ウ いじめの解消に向けた取組

認知したいじめ事案は、単に謝罪をもって安易に解消とせず、いじめが「解消している」2つの要件を満たし、他の事情も勘案して判断すること。

<いじめ解消の要件>

① いじめに係る行為が止んでいること

対象児童生徒に対する心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）が止んでいる状態が相当の期間継続していること。この相当の期間とは、少なくとも3か月を目安とする。

② 対象児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと

いじめに係る行為が止んでいるかどうかを判断する時点において、対象児童生徒がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められること。対象児童生徒本人及びその保護者に対し、心身の苦痛を感じていないかどうかを面談等により確認する。

- (ア) いじめの被害の重大性等から、さらに長期の取組・見守り等の期間が必要であると判断される場合は、この目安にかかわらず、市教育委員会又は学校の判断により、より長期の期間を設定すること。
- (イ) 相当の期間が経過するまでは、対象児童生徒及びいじめを行った児童生徒の様子を含め状況を注視し、期間が経過した段階で判断を行う。行為が止んでいない場合は、改めて、相当の期間を設定して状況を注視すること。
- (ウ) いじめが解消に至っていない段階では、対象児童生徒を徹底的に守り通し、「いじめ防止委員会」において、いじめが解消に至るまで対象児童生徒の支援を継続するため、支援内容、情報共有、教職員の役割分担を含む対応プランを策定し、確実に実行すること。
- (エ) いじめが「解消している」状態とは、あくまで、一つの段階に過ぎず、「解消している」状態に至った場合でも、いじめが再発する可能性が十分にあり得ることを踏まえ、学校は、当該いじめの対象児童生徒及びいじめを行った児童生徒を、日常的に注意深く観察すること。

6 いじめの重大事態への適切な対応と学校における平時からの備え

いじめの重大事態へ適切に対応するためには、「法」、いじめの重大事態の調査に関するガイドライン（令和6年8月改訂版 文部科学省）（以下、「ガイドライン」という。）及び「基本方針」を踏まえ、「学校いじめ防止基本方針」を効果的に運用することにより、いじめの積極的な認知や早期発見・早期対応及び「いじめ見逃しゼロ」を徹底するとともに、いじめを重大化させない取組が重要である。

法が定めるいじめの重大事態は、重大な被害等の「疑い」の段階からいじめの重大事態として取り組み、調査の実施に向けて動き出すことが求められており、いじめの重大事態が発生した場合に、迅速か

つ適切に対応することができるよう平時から備えておくことが必要である。

(1) いじめの重大事態の基本的な考え方

「法」第1号の「生命、心身又は財産に重大な被害」については

- ・児童生徒が自殺を企図した場合
- ・身体に重大な傷害を負った場合
- ・金品等に重大な被害を被った場合
- ・精神性の疾患を発症した場合

など、対象児童生徒の状況に着目して判断する。

「法」第2号の「相当の期間」については、不登校の定義を踏まえ、年間30日を目安とする。ただし、児童生徒が一定期間、連続して欠席しているような場合には、上記目安にかかわらず、市教育委員会又は学校の判断により、迅速に調査に着手することが必要である。

また、児童生徒や保護者から、いじめにより重大な被害が生じたという申立てがあったときは、予断を持たず、事実に基づき、報告・調査等に当たる。

児童生徒又は保護者からの申立ては、学校が把握していない極めて重要な情報である可能性があることから、調査をしないまま、いじめの重大事態ではないと断言できないことに留意する。

(学校の設置者又はその設置する学校による対応)

第28条 学校の設置者又はその設置する学校は、次に掲げる場合には、その事態（以下「重大事態」という。）に対処し、及び当該重大事態と同種の事態の発生の防止に資するため、速やかに、当該学校の設置者又はその設置する学校の下に組織を設け、質問票の使用その他の適切な方法により当該重大事態に係る事実関係を明確にするための調査を行うものとする。

一 いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。

二 いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

2 学校の設置者又はその設置する学校は、前項の規定による調査を行ったときは、当該調査に係るいじめを受けた児童等及びその保護者に対し、当該調査に係る重大事態の事実関係等その他の必要な情報を適切に提供するものとする。

3 第1項の規定により学校が調査を行う場合においては、当該学校の設置者は、同項の規定による調査及び前項の規定による情報の提供について必要な指導及び支援を行うものとする。

(2) いじめの重大事態への対応

いじめの重大事態が発生した場合、学校は、直ちに市教育委員会に報告するとともに、市教育委員会の指導・支援の下でプロジェクトチーム等を編成し、調査等の適切な取組を行うこと。

(ア) 重大事態が発生した場合、学校は市教育委員会に報告し、市教育委員会は東広島市長（以下、「市長」という。）に報告する。

(イ) 市教育委員会の判断により、調査組織を学校又は市教育委員会内に置き、調査する。

(ウ) 学校に調査組織を置く場合は、市教育委員会の指導・助言のもとに調査を行い、その結果を市教育委員会に報告し、市教育委員会は、市長に報告する。

(エ) 市調査委員会が調査を行った場合は、その結果を市教育委員会に報告し、その結果を市長に報告す

る。

- (ウ) 市教育委員会は、市教育委員会又は学校に置く調査組織に対し、必要に応じて、県教育委員会に専門的知識を有する者の派遣を要請する。
- (エ) 市長が必要と判断した場合は、市長の附属機関等において再調査を行う。
- (オ) 市長が必要と判断した場合は、県教育委員会に対して、「広島県いじめ問題調査委員会」による更なる再調査を要請する。

(3) 学校における平時からの備え

ア 生徒指導体制の確立

学校は、年度初めの職員会議や教職員研修等の実施により、「学校いじめ防止基本方針」はもとより、「法」や「ガイドライン」等について理解し、いじめの重大事態とは何か、いじめの重大事態に対してどう対処すべきか認識しておくこと。

また、実際にいじめの重大事態が発生した場合には、校長がリーダーシップを発揮し、臨時の「いじめ防止委員会」を開催するなど、各教職員への適切な役割分担等を行い、組織的な対応を行うための生徒指導体制を確立すること。

イ 市教育委員会等との連携

学校だけで対応を抱え込むことがないよう、平時から市教育委員会と連携を緊密に行うとともに、警察や福祉などの関係機関と、いじめに対する措置等について連携を図ること。

ウ 記録等の作成及び保管

いじめの重大事態調査においては、学校における対応の検証を行うなど、学校における児童生徒への支援及び指導の記録等が重要な調査資料となるため、「いじめ防止委員会」において会議を開催した際の記録や、児童生徒への指導及び支援を行った際の記録を作成し、保存しておくこと。

また、重大事態調査を行う際は、正確な記録が必要であり、推測や感想のような記録は事実の検証が困難となる可能性があるため、「確認できた事項」と「確認できなかった事項」等の情報を記録として残すこと。

例えば、「いつ」「どこで」「誰が」「誰に」「何を」「どうした」等が明記されていることや、日頃の学校教育活動の中で作成、取得したメモ等をそのままにせず、学校又は市教育委員会において定める文書管理規則等に基づいて、適切に管理すること。

エ いじめの重大事態の未然防止

いじめを重大化させないことが重要であり、学校全体で、いじめの未然防止や早期発見・早期対応及び「いじめ見逃しゼロ」に取り組むこと。

また、暴力行為やいじめ等の動画、個人情報等がSNS等に投稿・拡散された場合には、警察等とも連携し、毅然とした対応を行うこと。

7 「東広島市いじめ防止基本方針」の公表及び改定

「基本方針」は、市教育委員会ホームページで公表するとともに、より実効性の高い取組とするため、必要に応じて検証及び見直しを行う。

第1回「東広島 Well-being フェスタ」の開催について

1 開催目的

本市では、地域共生社会の実現に向け、「人づくり」が「つながりづくり」、さらには「地域づくり」へとつながる好循環の創出を目的に、これまで個別に実施してきた「生涯学習フェスティバル」と「健康福祉まつり」を発展的に統合し、開催する。

市民が楽しみながら参加できる機会を創出し、参加を通じて学びや出会いが生まれ、会話や体験による共感が広がることで、一人ひとりの主体的な行動へとつながる場とするものである。

2 開催日時

令和8年11月1日（日）10:00～17:00

3 開催場所

メイン会場 東広島芸術文化ホールくらら、西条中央公園（美術館前）

連 携 会 場 市民文化センター、黒瀬生涯学習センター、豊栄生涯学習センター、安芸津生涯学習センター

4 主な催事内容（予定）※詳細は別添チラシ

会場		内容
くらら	大ホール	・開会式 ・講演会 講師：てい先生（現役保育士/育児アドバイザー） ・ステージパフォーマンス（ダンス、演奏等）
	小ホール	・健康ブース（健康測定・体験・専門家への相談ほか）
	諸室、こもれび広場、市民ギャラリー等	・表彰式（生涯学習パスポート達成者、社会福祉功労団体、社会福祉団体役員功労者、社会福祉活動優秀者） ・学び・福祉・健康・地域活動の体験、展示ブースほか
西条中央公園（美術館前）		・飲食、屋外体験ブース（福祉車両展示、としよまる2号ほか） ・ボランティア体験
市民文化センター		・ホールイベント「第十六回特別公演 観月会 十三夜の篠笛」 ・絵画展示、アート体験
黒瀬生涯学習センター		・講演会「熊本地震からひも解く広島の活断層と防災」 ・コミュニティーサークル体験会
豊栄生涯学習センター		・オープニングアクト（賀茂北高校備後神楽部） ・講演会「お互いさまとおかげさまの地域づくり ー認知症の知識と意識（支え愛・寄り添い愛・見守り愛）ー」
安芸津生涯学習センター		・安芸津ウェルビーイングクエスト～PERMAの印と魔王の試練～
ホームページ		・各地域センターの講座紹介

5 主催

東広島 Well-being フェスタ実行委員会

（東広島市、東広島市教育委員会、東広島市社会福祉協議会）

／学ぶ・つなぐ・動き出す／

東広島

入場
無料

Well-being フェスタ

2026年

11/1(日)

10:00~17:00

メイン
会場

●東広島芸術文化ホールくらら
●西条中央公園(美術館前)

連携
会場

●東広島市市民文化センター ●黒瀬生涯学習センター
●豊栄生涯学習センター ●安芸津生涯学習センター



「生涯学習フェスティバル」と「健康福祉まつり」がひとつに！

講演会



教えて！てい先生

ひとりじゃない、
子育てがもっと楽しくなるヒント

11:00~12:00

くらら 大ホール

申込期間

9/18(金)~10/13(火)



お申し込みはこちら

手話・
要約筆記つき

託児あり
(定員制・要申込)

6つの会場で広がる学びと発見
会場ごとに特色ある企画を展開

豊栄
生涯学習センター

メイン会場

東広島芸術文化ホール
くらら
西条中央公園(美術館前)

東広島市
市民文化センター

黒瀬
生涯学習センター

安芸津
生涯学習センター

ボランティア体験



ステージ



体験・展示ブース



※内容・開催時間は、会場によって異なります。

地域センターの講座紹介、フェスタの詳細は特設サイトをご覧ください。



特設サイト



実行委員会
Instagram

お問い合わせ

東広島Well-beingフェスタ実行委員会事務局
(東広島市教育委員会生涯学習課内)

TEL (082) 420-0979

主催：東広島Well-beingフェスタ実行委員会

共催：東広島市・東広島市教育委員会・東広島市社会福祉協議会



東広島 Well-being フェスタ



メイン会場では福祉の専門職がサポートします。お気軽にお越しください。

講演会 11:00~12:00

教えて! てい先生

ひとりじゃない、
子育てがもっと楽しくなるヒント

大ホール

手話・要約筆記つき、託児あり(定員制・要申込)



講師: てい先生

現役保育士・育児アドバイザー

現役保育士18年目。
SNS総フォロワー数200万人超。
報道番組からバラエティーまでテレビ
出演多数で、「いま一番相談したい保
育士」として広く活躍されています。

要申込

講演会
申込先



申込期間
9/18金~10/13火

ステージパフォーマンス 13:00~17:00

市内で活動する団体による多
彩な発表をお楽しみください。
【フィナーレ】パピコ×DANCE
STUDIO LEAPコラボステージ

大ホール



体験・展示ブース 10:00~17:00

気になる!やってみたい!が見つ
かる、学び・福祉・健康・地域活
動の団体が出展します。

くらら館内



健康ブース 10:00~16:00

健康測定(血圧・体組成測定)、
専門家への相談(栄養相談)な
ど日頃気になっていることを気
軽に楽しくチェックしましょう。

小ホール



謎解きイベント 10:00~17:00

くららのあちこちに謎が出現!
館内を巡って謎解きに
チャレンジしてください!

くらら館内

広島大学 ナムサークル



東広島芸術文化ホールくらら

西条中央公園(美術館前)

ボランティア体験 9:00~16:00

地域の居場所づくりの活動を、ボラン
ティアスタッフとして体験してみませんか。
ダイドコロプロジェクト、あそびの場 ほか



飲食ブース 10:00~15:00

地元の軽食店や団体のグルメを楽
しもう!



体験ブース 10:00~15:00

福祉車両展示・モビリティ体験・
としよまる2号ほか。



東広島市 市民文化センター

第十六回特別公演
観月会 十三夜の篠笛

ホール 13:30(13:00開場)~

一般社団法人あるすとのコラボ事業
絵画の展示&アート体験

1階ロビー、2階 協力:クレアネイト株式会社

要申込
有料



黒瀬 生涯学習センター

コミュニティサークル体験会
イベントホール ほか

熊原康博先生講演会(広島大学)
会議室A 13:00~15:00

おはなしのとびら ひらけごま
(ストーリーテリング)和室14:00~15:00



豊栄 生涯学習センター

神楽公演

ホール 9:30~10:00

広島県立賀茂北高等学校備後神楽部

吉岡俊昭先生講演会

(トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校)

ホール 10:10~11:40

要申込



安芸津 生涯学習センター

安芸津ウェルビーイングクエスト
~PERMAの印と魔王の試練~

ホール・ホワイエ 10:00~16:00



※開催場所・内容は予定であり、変更となる場合があります。

最新情報と事前申込は特設サイト等でご確認ください

実行委員会
Instagram

-16-



特設
サイト



東広島市教育委員会定例会

(3) その他

ア 令和8年度教育施設等状況視察について（教育総務課）

イ 次回教育委員会定例会の日程について（教育総務課）

令和8年10月21日（水）10：15～（視察）

令和8年11月 日（ ）： ～（会議室 ）

令和8年9月

その他ア

令和8年度教育施設等状況視察について

1 開催日時

令和8年10月21日（水） 10：15～16：35

2 視察コース・日程

時 間	内 容
10：15	東広島市役所（北館正面玄関前）集合
10：50～12：50	川上小学校 到着 校舎見学（11:00～） 給食試食、意見交換（12:10～）
13：00	川上小学校 出発
13：45～14：30	黒瀬生涯学習センター 到着 センター視察（13:50～）
14：30～15：50	教育委員会定例会
15：55	黒瀬生涯学習センター 出発
16：35	東広島市役所 到着

3 近年の視察先

令和7年度	学校教育関係：御菌宇小学校（校舎見学・給食・意見交換）、 教育委員会定例会：御菌宇小学校
令和6年度	学校教育関係：東西条小学校（校舎見学・給食・意見交換）、 高美が丘中学校（学習視察） 教育委員会定例会：高美が丘中学校
令和5年度	学校教育関係：西条中学校（校舎見学） 生涯学習関係：白牡丹酒造延宝蔵 教育委員会定例会：西条中学校
令和4年度	学校教育関係：志和小・中学校（校舎見学・給食・意見交換） 生涯学習関係：旧東志和小学校、アグリ図書館、食協株式会社 教育委員会定例会：志和小・中学校
令和3年度	学校教育関係：東西条小学校（校内見学・給食・意見交換） 生涯学習関係：天文台（意見交換） 教育委員会定例会：市役所北館201